

タブレット、その数なんと7,844台を転売していたとのこと。この会社は業績悪化を理由に、全国に7箇所ある事務所のうち、東京と大阪を除く5箇所を閉鎖。社員も1割にあたる30人を解雇。事件が発覚したのは今年の12月。事務所を閉鎖したのは先月末(1月末)。わずか2ヶ月のことです。このように、一人の社員の不幸事で、会社の信用が失われ一気に経営に大打撃を与えることが現実起きてます。社員の行動を全て監視することは不可能ですが、実はある共通点があると言われています。それは「不正のトライアングル」と言われています。不正・不祥事が発生した企業には次の3つの原因のどれかがあるとされています。1つ目に機会です。不正行為ができる環境です。経費申請・立替払いの処理が上司のチェックがない、換金可能な物品の管理がずさん、など不正を行おうとすればできてしまう環境になっている。2つ目に動機です。不正行為をしたくなるような事情として、個人がお金に苦労している、借金を背負っている。他には上司から必要以上の叱責を受けた。受注をもっと取らなければ、という状況に置かれている。3つ目に正当化です。不正行為を正当化してしまう要因「後から返す」から大丈夫。自分をもっと評価されて良いのに、評価されていない。だからこれ位しても問題ないのだ。と考えさせてしまう要因。これらを全て防げると一番良いですが、それもなかなか難しいです。私は個人的にはこの要因が2つ以上重なると不正が起きやすい土壌になると思っています。2つ以上が重ならないようにしてみても如何でしょうか。ここにいらっしゃる皆様はこのような「不正のトライアングル」という言葉では知らなくても、経験でご存じだと思います。難しいのは会社のトップが分かかっていても、マネージャー層が理解してないことです。不正・不祥事というのは、一か所穴があっただけでも起きてしまいます。弊社では課長以上に対しこのような研修を行い、事例を交えて紹介することにより自分事として捉え意識させるようにしています。皆さんの会社でもお役に立てば幸いと思い、CF後のお時間を頂きましてご紹介をさせて頂きました。

ご清聴ありがとうございました。